

小学校第6学年 社会科 学習指導案

期 日 平成28年11月11日(金) 第2校時
場 所 芦北町立田浦小学校 6年1組教室
指導者 教諭 福溝 祐一

1 単元名

「世界に歩み出した日本」(東京書籍6年)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領第6学年の目標(1)、内容(1)のクを受けて設定したものである。明治中・後期から大正期における、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

2016年5月三重県志摩市において、主要国首脳会議が行われ、日本も議長国として参加した。国際的な政治的、経済的課題について討議する場に参加するということは、日本が国際的に一定の影響を持つ国として認められている、あるいは、期待されている国ということであろう。

江戸時代後期に結ばれた日米修好通商条約をはじめとする不平等条約は、当時の日本と欧米諸国との国力の差を表すものであった。明治政府は、他国に比肩し得る国づくりを進めるために、富国強兵や殖産興業といった政策を次々と打ち出し、国力の充実を急速に進めていくことになる。しかし、条約の改正はなかなか進展せず、当時の風刺画にも表されるように、日本の国際的な地位は低いままであった。

このような中、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世といった人々が努力と工夫を重ね、その働きにより条約改正、ひいては、日本の国際的地位の向上に大きな役割を果たしてきた。こうした人々の営みに焦点を当てることは、先人の働きの上に現在の日本が成り立っていることに気付き、我が国の歴史に誇りを持ち、伝統と文化を大切にしようとする心情を育てる観点から、大変意義があることと考える。

また、本単元は、日本の国際的地位が向上した背景として、様々な歴史的事象を捉えることになる。それらを多角的に考察したり関連付けたりする活動を通して、事象の意味や意義を見いだしていくことができる内容である。

これらのことから、思考力・判断力・表現力という資質・能力の獲得につながり、本校の学校教育目標の「豊かな心を持ち、自ら学ぶ、たくましい子どもの育成」及び目指す児童像の「自分の思いや考えを伝え合うことのできる子ども」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

第6学年(10月)	第6学年(11月) 本時	第6学年(11月)
「明治の国づくりを進めた人々」 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。	「世界に歩み出した日本」 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。	「長く続いた戦争と人々の暮らし」 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

(3) 児童観

本学級23名の実態は、以下のとおりである。

①学習アンケートの結果から

- 1 社会科の学習が好きである。 はい (21名) いいえ (2名)
 (理由) ○歴史上の人物がどんなことをしたか、知ることができる。
 ○新聞などにまとめるのが好き。 ○昔の出来事を知ることができる。
 ○何かをやったことによって、世の中がどう変わったのかを知ることができる。
 ○今まで知ることができなかつたことが分かる。
 ○驚くことがたくさんあるし、歴史に隠された秘密を探るのが面白い。
 ○歴史上の人物の独特の考え方を知るのが好き。
 ▲人物が多く、難しくて苦手。
- 2 社会科で行う次の活動が好きである。
- | | |
|------------------------|-------------------|
| ○本やパソコンでの調べ学習 | はい (22名) いいえ (1名) |
| ○話し合いをして、意見を出し合うこと | はい (18名) いいえ (5名) |
| ○調べたことを一人でまとめること | はい (9名) いいえ (14名) |
| ○調べたことをグループでまとめること | はい (20名) いいえ (3名) |
| ○調べて分かったことを人前で発表すること | はい (7名) いいえ (16名) |
| ○調べて分かったことを作品として発表すること | はい (9名) いいえ (14名) |
- 3 次のことを、自分はできていると思う。
- | | |
|------------------------------|--------------------|
| ○資料を見て、気付きをたくさん書く | はい (18名) いいえ (5名) |
| ○二つ以上の資料を見比べて、気付きや分かることを書く | はい (18名) いいえ (5名) |
| ○自分の意見を考える時に、前に学習したことを生かす | はい (14名) いいえ (9名) |
| ○人の意見と自分の意見の同じところ、違うところを考える | はい (14名) いいえ (9名) |
| ○人の考えを聞いて、自分の意見を改善したり、深めたりする | はい (12名) いいえ (11名) |

②学級集団づくりアンケートの結果から

- 1 友達の発表に、賛成や反対、付け足しの意見を言っている。
 ◎ (5名) ○ (10名) △ (7名) ▲ (0名)
- 2 自分の考えや意見を発表しやすい雰囲気がある。
 ◎ (4名) ○ (13名) △ (4名) ▲ (1名)
- 3 いつも同じ人とグループで固まったりせずに、色々な友達と遊んでいる。
 ◎ (2名) ○ (15名) △ (4名) ▲ (1名)

活動的な集団ではあるが、人前で考えを発表することを苦手と感じている児童が学級の6～7割いる。アンケートの結果からは、社会科の学習に関しては、9割以上の児童が肯定的に捉えていることが分かる。特に、調べ学習、話し合いやまとめの活動を好む傾向にあり、ペアやグループでの活動を意図的に取り入れてきた成果であると考えられる。しかし、個別の活動を苦手と考えている児童が少なからずいる。課題設定やワークシートの工夫など、一人一人が考えを持つことができるような手立てを講じる必要がある。

技能面については、気付きや分かることを書くなど、簡単なものは少しずつできるようになってきているが、人との関わりにおける技能が高まっているとは言い難い。思考の型を示す「話形カード」等を活用し、思考の深まりのある学習を継続していかなければならない。その基盤となる集団づくりの観点からも、まずは話を聞いて受容的に受け止める態度を、授業を通して身に付けさせていく必要がある。

(4) 指導観

○本単元の指導に当たっては、条約改正とそれに関わる陸奥宗光、小村寿太郎の努力や工夫に迫る学習活動を軸に、国力の充実や国際的地位の向上につながる様々な事象の意味や、相互の関連性について考える活動を設定することで、児童の思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

○単元の冒頭で、「条約改正に成功した要因は何か」という問いを持つことで、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争の持つ意味、科学の発展に尽くした人々の業績を主体的に考えさせるとともに、陸奥、小村という人物に焦点を当てることで、先人の国を思う気持ちの上に、現在の我が国が成り立っていることを感じさせたい。

学びを引き出す
学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ①歴史的事象を、条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動を通して、考えの差違を明確にし、歴史的事象の意味や因果関係を深く捉えるための対話を活性化することによって、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指すようにする。
- ②それぞれの考えを出し合う場面において、単に自分の考えを発表するだけでなく、困った部分や迷った点も出し合うようにし、対話を生み出すようにする。

学びを振り返る
思考過程の可視化と
学びの振り返り

- ③チャート図を活用した板書やワークシートにより、考えの類似・相違を明らかにしたり、共通点を見いだしたりする活動を行い、「思考力・判断力・表現力」の育成につながるようにする。
- ④毎時間の終末において、キーワード作文形式のまとめにより学習内容の定着を図るとともに、振り返りの活動で学びの深まりや考えの変容の自覚化及び見取りを図るようにする。

学びを支える
学びのUD化とICTの
活用及び支持的風土

- ⑤ICTを活用することにより、教材の拡大提示による問題把握や考えの共有化を図り、児童一人一人の「思考力・判断力・表現力」育成に努める。
- ⑥本校独自の話形カードを活用した対話活動を日常的に行うことで、共感的な話の聞き方や質問を交えた相づちの入れ方などの練習を行い、話しやすい学級の雰囲気作りに努める。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解し, 我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上したことや, それによって人々の生活や社会が変化したことが分かるとともに, それらに関わる人物の願いや働きについて考えたことを適切に表現することができる。		
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きに関心を持ち, 進んで調べようとしている。 ②世界の中での日本の立場に関心を持ち, それがどのように変化してきたか進んで調べようとしている。	①日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きについて問題意識を持ち, 見通しを持って, 追究・解決している。 ②我が国が欧米の文化を取り入れ, 国力が充実し, 国際的地位が向上したことについて調べたり, 関連付けたりして, それらに関わる人物の果たした役割を考え, 適切に判断している。	①日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きについて, 地図や年表などの基礎的資料を効果的に活用し, 調べている。 ②調べたことを白地図や年表, ノートなどに分かりやすくまとめている。	①日清・日露戦争, 産業の発展や条約改正などによって我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上したことが分かっている。 ②我が国の産業がさかんになり, 国際的地位が向上したことによって, 人々の生活や社会が変化したことが分かっている。

4 指導・評価の計画（8時間扱い 本時5／8）

単元を貫く問い：どうして日本は条約改正を成功させることができたのだろうか。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 ノルマントン号事件の風刺画から、当時の日本が抱えていた外交上の課題について考える。	【関心・意欲・態度】②：ノート，観察 【学びを引き出す】 ②意志決定の場面を設けることによって，当時の人の困惑に迫り，課題解決に向けた主体的な学びにつながるようにする。
	1	2 年表づくりを通して，陸奥宗光や小村寿太郎の業績を知り，学習課題を設定する。	【技能】①②：ワークシート 【学びを引き出す】 ②年表にまとめ，条約改正までの道筋を明らかにすることで，自分の考えをのを見通しを持たせる。
二	1	3 日清・日露戦争によって，日本と世界の国々との関係がどのように変わったか考える。	【知識・理解】①：ノート 【学びを振り返る】 ④いくつかのキーワードを用いてまとめを行うことにより，学習内容の定着を図るとともに，課題解決の手がかりの一つとさせる。 【学びを支える】 ⑤風刺画などをモニターで確認し，当時の日本の立場を押さえることで，二つの戦争の意味を考えさせる。
	1	4 朝鮮の植民地化，医学の分野での貢献など，日本の世界における立場の変化を考える。	【関心・意欲・態度】①：ノート，観察 【学びを振り返る】 ③ジャンル毎に整理して板書することにより，様々な分野で日本人が活躍したことをつかませる。
	2 (本時 1／2)	5 国力の充実に向けて行われた歴史的事象の意味について，条約改正と結び付けて考える。	【思考・判断・表現】①：ノート，ワークシート 【学びを引き出す】 ①歴史的事象の条約改正への影響度をランク付けすることで考えの違いを生み出し，それぞれの事象の意味を深く考えられるようにする。 【学びを振り返る】 ③チャート図を用いて，歴史的事象に共通する「国力充実」「国際的地位の向上」といったキーワードに気付くことができるようにする。
三	1	6 産業の発展によって，日本国内で起こった社会問題や人々の意識の変化について考える。	【知識・理解】②：ノート 【学びを引き出す】 ②網羅的に扱うのではなく，個々の場面での人物の心情を考えることにより，当時の課題を明確化する。
	1	7 明治時代後期における日本の国際的地位の変化や国民の意識の変化について，関連する人物の働きや思いと関連付けてまとめる。	【思考・判断・表現】②：ノート 【学びを引き出す】 ①国際的地位は向上したものの，東アジアの国々との関係悪化などの課題が生まれたことに触れ，次の単元の課題意識を持たせる。

5 本時の学習

(1) 目標

条約改正への影響の大きさという視点からランク付けする活動を通して、大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争などの歴史的事象の意味を条約改正と結び付けて考え、判断している。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。	○前の時間までに作成した年表を用いて、時系列に振り返りを行うことで、関連性を捉えやすいようにする。 徹底指導 (ポイント) ○本時の学習における考えの根拠となる部分なので、項目の内容を簡潔に押さえる。	年表 電子黒板
展開 30分	2 [本時の問い]について話し合う。	【視点1】学びを引き出す 条約改正への影響度ランク付けをすることによって、対話を生み出し、「国力を高め、国際的地位を向上させる」という政府のねらいに迫らせる。	
		【言語活動】(設定の意図) BEST 3とその考えの根拠を交流する活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。	
整理 10分	(1) 自分なりの BEST 3 とその理由を考える。 ・文明開化 ・徴兵令、殖産興業 ・大日本帝国憲法と国会開設 ・日清・日露戦争 ・科学の分野での活躍 (2) グループで話し合い、BEST 3を決める。	○意見の差異を明らかにし、話し合いを焦点化するために、項目は五つに絞る。 ○項目は付箋に記入し、自由に並び替えができるようにする。 徹底指導 (ポイント) ○話形カードを基に、「結論→理由」の話し方や話の聞き方を確認する。 能動型学習 (ポイント) ○人と違う考えを大いに認め、「なぜAが1位なのか」「CよりBが上なのはなぜか」という視点で意見交換をするように促す。	短冊 ワークシート 伝え合い・学び合いカード
	(3) 各グループの BEST 3 を発表し、話し合う。	評価：思考・判断・表現 (ノート・発表) B基準 それぞれの項目が条約改正に及ぼしたと思われる影響を、歴史的事実を根拠として考え、表現している。 A基準 B基準に加え、二つ以上の項目を関連付けて、考えを表現している。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 ○関連する部分のノートを目立つようにしておき、その箇所を読み返してみるよう助言する。	
	3 学習したことをまとめる。 (1) 自分の考える BEST 3 を見直し、その根拠を書く。 (2) 考えを発表し合う。 ①ペア発表 ②全体発表	○4段階評価及び一言コメントで本時の学びを振り返らせ、次の学習への意欲を高める。	
	4 学習したことを振り返る。		